

令和5年度

静岡県保育連合会総会 並びに所長研修会

開催

期日 令和五年六月二十二日
会場 静岡市民文化会館

令和五年六月二十二日、静岡市文化会館において一般社団法人として初めての「令和五年度 静岡県保育連合会総会並びに所長研修会」が、来賓に県健康福祉部少子化対策担当理事 瀬寄浩二様、県社会福祉協議会常務理事 高橋邦典様、県健康福祉部こども未来局こども未来課長 鈴木安由美様をお迎えして開催されました。

県保育連合総会では、富士市の中里保育園 青野園長が司会を務められ、規定により土山雅之会長が議長に選出され、総会議事が進行されました。



土山会長の挨拶では、当連合会が一般社団法人となったことで、今後はより対外的で組織的な運営ができるようにしていく旨の話がありました。

五月に新型コロナウイルスが五類感染症に分類され、少しずつ生活様式が変わる中、いまだにマスクを着用している方も多くいます。マスクを着けて子どもと関わることは、間違いなく乳幼児期の子どもの成長に大きな影響を与えています。せめて、園にいる間だけでも、温かみのある通常のコミュニケーションをとることに、ためらいや不安を持たずに「子どもにとって大切なこと」を信じて保育をしてほしいと思います。



昨年、県内においてバス送迎時の事故や不適切な保育といった出来事がありました。今一度、自分の園を見つめ直し、一人ひとりの自覚と園長としてのリーダーシップを大切にして取り組んでほしいです。

更に、少子化が進み、より質の高い保育、地域を元気にする保育の提供をしていくべきだといったお話をいただきました。

施設長研修では、馬場耕一郎氏（こども家庭庁保育制作課教育・指導専門官）をお招きし、「こどもを守る こども家庭庁の役割」

による研修を行いました。

子どもの安全を守るためには、誰かがやってくれるだろうではなく、「自分が守る」といった高い意識で取り組むべきであり、園長が自ら、定期的に確認する必要があります。協力体制を築き、職員とともに取り組んでいくことも大切であるとのことでした。

また、「だろう」ではなく「かもしれない」といった意識を常に持ち、こども目線でシンプルに、継続的に子どものために安全対策に取り組むようにしていくべきだといったお話もありました。

令和五年四月より「こどもまんなか社会の実現のため」に、こども家庭庁が創設されました。社会全体がこどもをまんなかに取り組む中で、毎日子どもと一緒にいる私たちの保育も、こどもまんなかになるように、質の高い保育が求められると感じました。

